

開催地名	富山県 高岡市
開催日時	令和7年2月16日(日)13:30～15:00
開催場所	ふくおか総合文化センター
語り部	松本 佐一(新潟県村上市)
参加者	191人
開催経緯	とやま呉西圏域6市(高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市)は、令和6年能登半島地震で大きな被害を受けたが、当地域は被災経験が乏しく、大規模災害を前に自主防災組織や防災士が十分機能したとは言い難い状況であった。このため、災害時の自主防災組織の活動や防災士等との連携について実体験を交えた話を聞く機会を設けた。
内容	【地域防災の取り組みと水害への備え～令和4年水害の教訓～】 (1) はじめに ① 自己紹介 私は昭和27年11月4日生まれ(72歳)で、中学3年生の時に羽越水害を経験しました。令和3年度から4年度にかけて小岩内区長を務め、現在は小岩内区の評議員として地域の防災活動に携わっています。 ② 小岩内の地域特性 小岩内は新潟県村上市の南部に位置し、一級河川荒川の北岸にある集落です。背後には薬師山がそびえ、その麓を7本の川や沢が流れています。令和4年8月時点での世帯数は36、人口113人と、小規模ながら自然に囲まれた地域です。 (2) 令和4年水害の発生 ① 避難指示の発令 令和4年8月3日、村上市は神林地域に避難指示を発令しました。 これを受け、集落放送や消防団が一軒ずつ訪問し、住民に避難を呼びかけました。しかし、放送を聞いていない人や寝ている人がいる可能性もあったため、そうした家には再度直接訪問し、呼びかけを強化しました。私は自ら数件の家を回り、激しい雨音にかき消されないよう、戸を強くノックし、大声で叫んで住民の安全を確保しました。 ② 2次避難の決断 既に公会堂(公民館)に避難していた住民もいましたが、公会堂が大沢川の近くに位置し危険と判断したため、より安全な高台へと2次避難を行いました。車いすの方を含め、避難には苦労しましたが、命を守るためには必要な決断でした。 ③ 大規模な土石流の発生 8月4日未明、大量の流木を含む大規模な土石流が発生しました。この時、私は55年前の羽越水害と同じ「匂い」を感じ、直感的に土石流が起きたことを確信しました。 公会堂付近の住居が押し流され、集落全体が大きな被害を受けましたが、住民に犠牲者は出ませんでした。 しかし、36世帯のうち7棟が全壊し、甚大な被害となりました。 (3) 避難生活と復興支援 ① 長期間の避難生活 避難指示は令和4年8月3日21:30から令和5年10月1日9:00までの約1年2ヶ月間に及び、多くの住民が仮設住宅での生活を余儀なくされました。 令和4年9月13日には仮設住宅への入居が始まりましたが、避難生活では生活環境や支援体制に関する苦情も多く寄せられ、時には直接関係のない内容の相談も受けました。 ② 全国からの支援とボランティアの活躍 復興・復旧に向けては、全国からの支援が寄せられました。特にボランティアの力が大きく、100人以上の重機ボランティアや新潟市内の高校生ボランティアが活動し、地域の再建に尽力してくれました。この支援には感謝の気持ちしかありません。 ③ 地域住民との交流と再生 令和5年10月22日、避難指示が解除された後、初めての収穫祭を住民と共に開催しました。

この祭りを通じて、住民同士のコミュニケーションを深めることができ、地域の一体感が再び生まれました。

こうした住民間の絆こそが、災害時や復興時において最も重要なものだと実感しました。

(4) 災害から学ぶ教訓と今後の防災対策

① 過去の経験を活かした防災訓練

羽越水害の経験を活かし、以下のような防災訓練を実施しています。

- ・声かけ訓練(避難が必要な人への呼びかけ)
- ・避難ルートの再確認(土砂災害の危険性を考慮)
- ・避難者の安否確認(誰がどこに避難したかの情報共有)

このような取り組みにより、令和4年の水害でも犠牲者を出さずに済みました。

しかし、住民の避難先が把握しづらく、安否確認に時間がかかったという課題がありました。そこで、災害後により迅速に安否確認ができるよう、連絡体制の整備を進めました。

② 「自助」の意識を高める

災害時には「公助」に頼ることが難しい場合が多いため、「自助」の意識を高めることが何よりも重要です。

特に、土砂災害が発生しやすい地域では最も危険であり、住民全体でこの危機意識を共有し、日頃から備えることが大切です。

(5) まとめ

- 1.過去の災害の経験を活かし、防災訓練を実施することが重要。
- 2.避難時の声かけ、避難ルートの確認、安否確認の徹底が必要。
- 3.災害時の課題を振り返り、より迅速な連絡体制を整えることが重要。
- 4.「自助」の意識を高め、地域全体で危機管理意識を持つことが必要。
- 5.ボランティアや支援者への感謝の気持ちを忘れず、地域のつながりを大切にする。
- 6.災害後の地域再生には、住民同士の交流が不可欠。

今後も「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、地域全体で防災・減災の取り組みを進めていきます。



開催地より

語り部の講演から、地域の災害特性に応じた事前の備えや、災害時の自主防災組織や防災士等が連携した活動の重要性を学んだ。自主防災組織や防災士に対し、地域の災害特性等を踏まえた実践的な防災訓練の実施や、自主防災組織、防災士等の日頃からの連携を働き掛けていきたい。